

『高校クラス担任の基本とQ & A』をご購入いただきありがとうございます。

このデータは、ページの都合で本書に載せきれなかった回答を紹介するためのものです。

本書の回答が自分には合わなかったり、もっと様々な意見や考えが知りたかったりする場合に参考にしてみてください。

- ・事例(悩み)の内容は省略しています。お手元の本をご覧ください。
- ・ダウンロードデータでは、回答者の元の表記をなるべくそのまま載せています。

第4章

職場・仕事関係の 悩み

【事例 51】

★お疲れ様です。ズバリ、一人でやろうとしないことです。委員や係に仕事を割り振ってみましょう。たとえば、提出物の回収は、個人情報にかかわらないものでしたら、各教科係や集配係を作ってお願いします。教室内の掲示物の整理整頓も掲示係にやってもらいましょう。毎日の教室の整備は、清掃班や日直にお願いします。HRは生徒と作り上げていくものですから。

★担任の忙しさ、全面的に同感です。優先順位をつけてもうまくいかないとのことですが、力の抜きどころを把握し切れていないのかもしれませんが。例えば提出物の並び変えというのも、本当にその書類に必要でしょうか？校外学習の参加同意書などは、受け取ったことを名簿にチェックできていれば OK です。また、オンラインアンケートで済ませてよい提出物は積極的に活用しましょう。力の抜きどころを把握することです。

★担任になると仕事量が激増します。多くの教員はそれを乗り越えて頑張っています。過去に比べて現在の担任業務が激増したわけではありません。以前から担任の仕事は多くて大変でした。それでも、生徒を教育することに情熱とやりがいを感じて努力してきました。過労死の不安を感じているようですが、そのあたりは上手にペース配分しましょう。倒れてしまっただけでは仕事になりませんし、周囲の先生方に迷惑をかけることになるからです。

★学校によっては副担任の先生が充てられたり、複数担任制が採られたりすることもあります。生徒や保護者にとって、最前線に対応にあたるのは担任であるという雰囲気があります。生徒とだけ関わることが担任業務だと思いたいところですが、「生徒に関わる諸々の作業」ととらえて、対応するしかありません。とはいえ、同時進行しなければならない業務は、学年団の先生に聞きながら効率化して進めてみてはどうでしょうか。

【事例 52】

★仕事とプライベート、いわゆるワーク・ライフバランスですよね。とっても大事です。人生はライフステージによって、子育て等で学校に長くはいられない時期、プライベートを充実させたい時期、仕事に頑張りたい時…等があると思うのです。「今学期から、○曜日は早帰りDayにさせていただきます！」と宣言してはいかがですか。そして、しばらくは「何かありましたら朝のうちにお願いします。」と付け加えましょう。やがて、皆さんも認識してくれますよ。私は、木曜日が早帰りDayです。

★仕事の精選や分担の見直しを呼びかけてみましょう。一人が抱え込んでいた仕事を、他の教員とチームで対応したり、助っ人を頼んだりする発想も必要かもしれません。一人だけ帰るのは気が引けるのなら、その環境を変える努力が必要です。とはいえ、手伝いを申し出ても変化がないのであれば、ある程度のあきらめは必要ですね。じっくりと仕事に取り組みたい人は少なからずいますから。人間関係を損ねない工夫があればよいのではないのでしょうか。

★与えられた仕事を時間内に終わらせることは大事です。ただ、周りの先生が夜遅い状況は好ましくありません。プライベートで早く帰ることができる職場環境を整備するような指示を本来は管理職がすべきです。我々教員は、現在4%の残業手当をいただいています。時間にすればわずか15分程度です。確かに遅く残らないと終わらない仕事があるとは思いますが、病気になるような残業は、生徒に対しても悪影響を与えることになります。学年で手伝える仕事は行い、皆で早く帰る環境整備をする意見を述べるのはどうでしょうか。

★同僚思いの素敵な方ですね。仕事に関してのスタンスの違いなので気にすることはありません。じっくり丁寧に仕事をするタイプの人は社交的で人が良い人も多く、会話で仕事が進まず他の人が帰り始めてからやっと仕事に集中できています。プライベートの充実が原動力のあなたは、お付き合いで長く一緒にいることなく、勤務時間内に自身のできる範囲でお手伝いすることで十分周りを助けることができますよ。

【事例 53】

★仕事は給料分、と私は思っています。年配者には、給料に見合った仕事をして欲しいですよね。そもそも、仕事を偏らせずに振り分けることこそが、年配者の仕事ですよね。仕事を一つ振られたら、すべきことを付箋に書いて、誰もが見えるところに貼っておきましょう。現在、こんな仕事を抱えています、というアピールです。その数の多さを見たら、新たをお願いしたい事があっても、遠慮する…してくれる、と思いたいです。

★これは、業務分担が出来ていない状況です。誰かが楽をする代わりに誰かが残業している環境はよくありません。若手の先生は仕事の進みが悪いかもしれませんが、丸投げされても簡単に受けないように仕事をさせ、仕事の意識を高め、経験を積ませるべきです。もちろんうまくいかないことが多いと思いますが、サポートしながら、健全な職場の仲間として育てていきましょう。仕事をしない若手は経験を積まずに年だけとっていくので、将来を考えると後輩から疎まれるなど、その先はかなり不幸です。生徒を育てる意識と同様に、若手の同僚も育てていきましょう。

★経験は財産です。様々な仕事を経験することによって、ご自身のスキルアップにつながります。しかし、過重な仕事量を任されたら、消化不良になってしまいます。仕事を教えてやろうと考えるベテランと、丸投げされたと感じる若手との間には不満が残るだけです。そこで、ベテランに仕事について相談すると良いでしょう。指導を仰ぐという感じで、教えてもらいます。アドバイスを受けながら一緒に仕事をするようになります。

★まず学年の役割分担をする時点から、情報格差があります。ベテランは年間を通して比較的工作量の少ない役割を知っています。次に自身がやってきた専門や得意分野しかありません。新たにすべきことは、ほぼ若手に回ってきます。防衛策としては、仕事内容を分割にして下請けに出すことです。文句をたらたら言われたり、自分がやったほうが速かったりすることもあります。が、「お願いします」と笑顔を添えて一緒にやってもらいましょう

【事例 54】

★修学旅行に関する過去の資料はありますか？見当たらないなら、副担当の先生に探してもらいましょう。あなたが作った案が反対されたら、次の案を考えます。案が尽きたら副担当に言って助けてもらいます。「わからないことは聞く」ことが大切です。本来教員は教えたり屋が多いのです。できるだけご自身の力で進めて、どうしてもうまくいかなかったら、ベテランに教えてもらいます。好きにやらせてもらえることは大事なことですよ。

★「好きにやっていい」は「丸投げ」を意味します。若い者が作ってきたものに意見を付けながら形にしていく作業がご自分の仕事だと思っているからです。若い頃にご自身も苦勞してきたことがあって、その取組みや経験が自分の基礎的な力になったと信じている人なのでしょう。実際に0（ゼロ）ベースで考える経験は初任者の頃しか経験していません。誰かが責任を取ってくれるのであれば一生に一度だと思い割り切って好きなことをどうぞ。

★「好きにやっていい」と言われたとき、私は2つのパターンを想定します。一つは、この先生の実力が試されている場合、もう一つは、本当にどのようなことでも従うつもりで任されている場合です。後者の場合は、若手の柔軟な発想に同意してくれるでしょうから問題ありません。厄介なのは前者の場合ですよね。そのようなときは、好きにやっている風にしっておきながら前例を踏襲しておく、サブ担当の先生は何の反論もできなくなります。反対されたときは、好きにやった結果、これまでのものを踏まえ、と言えるからです。

【事例 55】

★はっきり言いましょう、要は言い方ですね。「自分の欲望のままに外食を重ねたら、財布がすっかりピンチです。しばらくは自炊教科期間にしようと思います。誘われるとつい、行ってしまうので、私を誘わないでください。」とか。博物館は休日でのことですか。その先輩教師のうんちくに耳を傾けつつ博物館巡りをしたいのなら、おいでになれば良いと思いますが、そうでないのなら、「休日は、ちょっとご一緒できません。すみません。」と申し上げることです。「つきあい悪いぞ～」とでも言われたら、「そうなんです。お付き合いできなくなりました、ご推察ください。」とでもおっしゃれば…。

★気が乗らなくても同行するなんて、人づきあいを大切にする方なのですね。実際、そういう場での相談から事態が打開できた！ということもあろうかと思います。ですがそれも程度問題、毎日毎晩のお誘い、休日までとなると時に息苦しくなりますよね。人間関係もできてきたころであれば、時にお断りできるのではないのでしょうか。先約がある、体調がすぐれない、など角の立たないお断りのフレーズをいくつか持っているといいですね。

★外食は月に 1 回又は 2 回というように決めて、先輩に宣言します。もし、宣言できないのなら、毎回付き合うしか方法はありません。週末の博物館の見学は、興味のある場合のみ行きます。興味のないときはそう伝えて断ります。嫌な顔をされても仕方ありませんが、やむをえません。同じ学年団だから、いつも一緒に行動する必要はありません。先輩は良かれと思って声をかけてくるのかもしれませんが、はっきりと思いを伝えるべきです。

★親切な先輩教員のように見えますが、職場の人間関係があるので、厄介ですね。私が実践している方法は 2 つです。①断る頻度を少しずつ増やすこと、②同行するなら複数人にすること、です。①は、すぐに断ると人間関係が心配でしょうから、少しずつ理由をつけては断りましょう。自宅でオンライン通話の予定がある、フードロスをなくすためにも余った食材を使い切る予定がある、などと苦し紛れの理由でいいのです。相手が気づいてくれるまで断りましょう。②は、一対一だと距離が近づきすぎてしまいます。この先輩と話するときや、同行するときは、3 人以上を心がけましょう。

【事例 56】

★初めての担任なのでしょうか。だとすれば、疑問やわからないと思った場合は小さいことでもどんどん質問した方が良いと思います。聞かなくても分かる場合でも、経験のある先生の意見を聞くことで自分では気づけなかった視座を得られる場合はとても多いです。周りから頼られる先生は忙しそうに見える場合が多いですが、気にする必要はありません。わからないまま年数を重ねる方がよっぽど怖いと思いますよ。

★はっきり言って、部活動が正式名でないと言うのであれば、部活動リストで選べないようにエクセルファイルを設定していない教務担当の落ち度です。部活動を途中でやめた生徒に関して情報を共有していないことにも問題があります。それは、現在の部活動所属リストを各部活動の顧問が、共有リストに載せるべきです。そのような原因は、仕事の体系的な部分が統一されていないために起こった不幸な問題のように思います。しっかりと情報を共有して仕事を進める職場環境を整備する必要があると思います。

★早めに入力しても、ギリギリに入力しても、担当者は的確なコメントをくれると思います。それなら、早めに入力した方が、担当者の負担は少なくてすむと思います。また、様々な疑問は、すぐに聞くと良いでしょう。基本的には、仕事は早め早めに進めると、万一、訂正する必要があった場合、余裕を持って直すことができます。ギリギリだと、見直しや確認作業が十分にできないこともあります。

★先を見通して早めに仕事に取り組む姿勢は立派ですね。教務担当の先生は「指摘」をただで「注意」をしたわけではないですよ。担当者もすぐに取り組む先生がいたおかげで他の先生が入力ミスしそうな傾向がつかめて助かったはず。もしも一から説明していたら六人程度にそれぞれ付きっきりで聞き落としがあったらまた再度の説明が必要になります。80%の精度で締切前に提出し、すぐに修正して期限内に 100%の方が効率的のようです。

【事例 57】

★読んでいて、1年目の自分を思い出しました。学校現場って、規則や1つ1つの仕事の仕方など細かいところまでは教えてもらえないですよね。周囲の先生方は優しく接してくれているとのことですから、細かいことでもどんどん周りを頼ってしまいましょう。周囲の忙しそうな先生方を気にかけるのであれば、なるべく同じ人に聞かず、少しずつ色んな先生に質問すると、関係性も築けるので一石二鳥ですよ。

★教員の世界も「働き方改革」が叫ばれる昨今、忙しそうにしている先輩には声をかけづらく、何とか自分で解決しているのですね。立派なことです。でもそれが対生徒の問題だと実際には解決になっていない、あるいは失敗の場合もあるかもしれません。かえって問題がこじれる前に、先輩方に相談しておいた方がよいでしょう。私たちも皆、OJTで成長してきました。若い同僚に頼りにされるのはうれしいものです。恥ずかしがらずに相談してください。

★仕事をする上で、必要となることについては、ある程度マニュアル化しておくべきだと思います。初任であれば、そのような研修を設けても良いはずです。忙しそうでも仕事で失敗するよりは聞いた方がよいです。どうしてもわからないので、教えてほしい旨のメモ書きを渡してもよいのではないのでしょうか。仕事で失敗した方が周りにはもっと嫌な顔をするようになることはわかんと思います。

★そのような若手を育てようとする環境に恵まれているのにもったいないですね。「聞くは一刻の恥、聞かぬは一生の恥」初任者だからこそ学ばないとならないことも膨大です。下手なプライドは捨てて、知らないことは何でも聞いて、メモをする習慣つけができていいですね。同じことを何度も聞かないことだけ注意すればわかるまで聞けばよろしいと思いますよ。何かを聞いて嫌な顔をするような方ならばその程度の先輩ですよ。

【事例 58】

★PCに関して、研鑽を積まれて、より便利になるよう工夫を重ね努力しておいでの様子が目に浮かびます。私なら、あなたが一生懸命作ったプログラムを壊すようなことがあっては…と考えて、触らないようにします、それでも、自分で出来ることは自分でやりたいとは思っています。

★私も同じような経験があります。質問されたときに、いちいち丁寧に教えるようにしていませんか？普段お世話になっている先輩だからと思い、丁寧にやり方を教え始めると、どんどんそれが普通のことになっていってしまいます。具体的なやり方を教えるのではなく、どう考えていけばできるようになるか、調べる時にはどう検索すれば欲しい情報が見つけやすいかななどを教えるようにしてみてもいいでしょうか。

★私も校内のICTリーダーをしているときは、同様にわずかなことで質問があり、自分の業務が進まずに困っていました。そこで、コンピュータの操作マニュアルを作成し、職員会議で配布したり、操作の研修会を実施することで、徐々にその質問数を減らすことができました。確かに新しいことを覚えたくない気持ちを持つ人はいると思いますが、元々PCに詳しい方が、自力で調べる道筋を作ることにより、そんな人でも多少は調べるようにはなります。また、あまりにしつこく頼る方がいれば、わからないと答えるのも手かもしれません。

★面倒見のよい「いい人」を辞めればよいのではないのでしょうか。私もよくお願いする側だから人のことはいえないのだけれども。「忙しいのでできません」「ほかの方に聞いてみてください」など『時間泥棒』にははっきり伝えるといいのです。何度聞いてもわからないとスがるベテランの先生もいますよね。最近YOUTUBEなどでわかりやすく解説している動画もあるので検索して動画を見てくださるとリンクを教えて差し上げるのもよい方法かも。

【事例 59】

★「貴重な情報をありがとうございます。」と言って感謝します。その方は、先生にとってその情報は必要だと思いこんで提供しているのかもしれませんが。(単なる、噂好きかもしれませんが) その上で、「私って、他の方から得た情報に影響されやすく、顔にも出やすいタイプなので、しばらく伺わないでおきますね。」「分からないことが出てきたら、私からご相談させていただきます。」と言ってみたらいかがでしょうか。

★面白おかしく評論家になりたがる先生はどこにでもいますが、その話は、話半分にして真面目に聞く必要はないと思います。自分の目で見て、相手と会話をして、判断すればよい話です。もしかすると、隣の席の先生は進路部の先生に何か嫉妬したために悪く言っているのかもしれませんが、その真意はわかりません。先入観にとらわれず、相手と向き合うことで判断すべきことです。嘘ばかりつく先生や面白おかしく人を悪く言う先生の周りには、まともに相手をする先生や生徒がいなくなるといいますので、それも判断材料になると思います。私は、人は言葉よりも行動でしか評価や判断はしていませんし、それを口に出そうとは思いませんね。自分を下げることに繋がりますので、変な噂話は聞き逃した方がよいです。

★どうも困った先生ですね。その先生の主観でものを言っているのですから「そうか」と聞き流せばよいと思います。ほかに信頼できる先生はいますか。いれば、その先生に相談したり、意見を聞いたりすれば良いと思います。うまくかわすには、「急ぎの仕事があります」などと言って、その場から離れるのも一方法ですが、席が隣では、同じ手を何度も使うわけにいきませんから、「そうですか」と軽く聞き流すほかありません。頑張ってください。

【事例 60】

★マズい！私も、若い先生方にパソコンの使い方を始終尋ねます。「後にしてください！」
「今は手が離せません！」といつもいつも叱られています。先生の場合、P Cの使い方を教えるのが嫌、というよりも、その後の昔話に時間を取られることに困っておいでのようなので、「3 分待ってください。」と言って引き受ける、「じゃあ、他の人に聞くよ」と半分くらいの方は諦めるはずです。「待ってる」…と言われたら、終了後は速やかに自分の仕事に戻りましょう。作業に時間がかかる内容でしたら、〇分後位にこちらから声をかけます、と言います、待ってられない場合は、他の方にお聞きになると思いますよ。自分も含めて、年配者はせっかちですから。

★きっと、教えてくれたことが嬉しくてそのまま雑談に入ってしまうのだと思います。頼まれたことや質問に答えた終わったところで、間髪入れずに「大丈夫そうですね？では私も作業に戻ります！」と言うようにしてみてもはどうでしょう。なんとなく、教わっただけで会話を終えるのが気まずいのではないかなと推測します。初めは勇気がいるかもしれませんが、そういう人なんだ、と思ってもらってしまえばその後がとても楽ですよ。

★コミュニケーションは大事だと思いますので、会話が全くないのはよくないと思います。しかし、愚痴ばかり聞くのは嫌ですよ。話を聞くことでベテランの先生のストレスは多少、減っているのですが、内容によっては、周りにストレスを増やしています。それらの愚痴の内容を解決する方向で質問してみてもいいのでしょうか、例えば、「どうやったら先生方が尊敬されるようになるか。」「テスト後に皆で旅行に行ける時間をつくる方法。」など、ベテランの先生は下手に答ええないと思います。また、自身の立場を理解し、この人にはこのような愚痴をこぼしてはいけないと感じれば、解決不能なことは言わなくなると思います。

★新旧のコミュニケーションへの考え方の違いだと思います。以前はベテランの先生が語ることを若手の先生が聞きその中で必要なことだけをくみ取り、試行錯誤する徒弟制度のような OJT でした。現在はポイントを伝えて見守る形です。生活指導面では書籍などでは対応しきれない場面やコツなどがあり、経験者の説得力はプライスレスです。昔話を聞いて差し上げることで話手の人生を肯定し存在価値や意欲を高める効果があると思われます。

【事例 61】

★「前の学校では…」と話す方、最低！と私は思っています。でも、ついつい転勤経験を重ねるうちにになってしまう言葉です。私も気をつけます。先生、どうぞ反面教師として肝に銘じてください。「恩師の聞きたくない話」については、はっきりと「私、聞きたくないです！」と怖い顔をして宣言しましょう。「恩師のイメージを壊さないでください、そんなことを伺うと先生の印象まで変わってしまいます」と私なら言いますね。

★前の学校の話題がとにかく大好きな先生、いますよね。それだけならまだしも、今の学校の悪口を言われると、初任の先生にとっては本当に精神的に疲れますよね。どんな学校にも、良いところと悪いところがあるはずですから、そういう話の内容はとにかく気にせず、有益と感じる情報だけ受け取るようにしましょう。もう少しすると他の先生との関係もできていき、相対的にあまり気にならなくなると思いますよ。

★「昨日より暑い寒い」に始まって、人ってなんでも比べたがりますね。人の自慢話など、耳をふさぎたくなるかもしれませんが、受け流したりやんわり断わったり、早めにその話題から離れる話術を身につけましょう。実際、仕事の付き合いでは、雑談からアイデアが生まれてきたり、職場の雰囲気明るくなったりしますから、全く無視もできません。私はうっとうしい自慢話は「すごいですね～」と相手の満足感を高め、早めに話題を変えています。

★新たな人間関係を結ぶために自分の自慢話と他人の中傷話の持ちネタしかない先輩はかわいそうですね。生徒や教員、学校などのゴシップネタはみんな好きだと思っている人が一部に存在します。「人を呪わば穴二つ」他人をさげすむような人は、期せずして周囲から疎まれる存在になるものです。「私はそういう話は好きではないです。ごめんなさい。」と素直に切り出してみてもいいかが？それでも変わらないのであれば距離をおきましょう。

【事例 62】

★思い描いていた姿と違うとモヤモヤしますね。でも学校はあくまで生徒中心、その学校の生徒に寄り添った教育活動が求められます。例え中学レベルでも、生徒の身に着き次のステップに進む後押しになれば、それでよいのです。大変な学校では、授業以外の時間にこそ生徒の成長を促すきっかけがあります。人との接し方、生活習慣(できれば学習習慣も……)などを身につけ、立派な社会人になった 10 年先の姿をイメージして関わってあげましょう。

★高校は学力レベルの差が大きいの、そのような不満があることは理解できます。現校は生徒指導に重点を置かざるを得ないので、今はそれに徹しましょう。数年後、英語教育に全力を注げる高校に異動することを期待しましょう。もし、無理なら高校の教員を辞めて、予備校又は塾などに転職する方法もあります。いやいや教員を続けると、生徒もご自身も不幸になります。決断の時です。

★自分が描いていたキャリアとズレが生じることは、どのような職業だってありますよね。私がするアドバイスは2つです。一つは、初心に返ることです。教職に就けたときの気持ちを思い出して、自分の仕事をもう一度見直してみてもいいでしょうか。もう一つは、転職を視野に入れて活動をしてみることです。本当に英語力を活かしたいのなら、教員以外にも職業はあるかもしれません。中途半端な気持ちで教員を続けることは、先生にとっても生徒にとっても不幸なことだと思います。